JAだよりおおがた
Ogata
6
JUNE
2016 No.515

特集 小泉進次郎議員への提言　小林　肇 04

今月号の主な内容

02　表紙紹介・あぐりプラザ情報・健康百科
03　フォトニュース
06　女性部活動だより
07　理事会報告・青年部活動報告と予定
08　初めてのお誕生日・今月のいちおし情報・フォトニュース

JA大潟村

JAだよりおおがた
Ogata
6
JUNE
2016 No.515

表紙のご紹介 「青年部試験圃場に南瓜定植」

青年部では今年度、園芸作物の生産振興のため県有地を借りて、南瓜と玉ねぎの栽培に挑戦します。５月６日のハウス巡回終了後は、45ａの試験圃場に南瓜の苗1200本を植えました。６月上旬に芽かきなどを行い、７月後半に収穫の予定です。

試験圃場に南瓜を定植した青年部員。夫婦で参加した人もいました

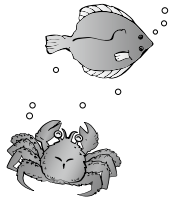
あぐりプラザトクトク情報

６月17日㈮ ポイント３倍優待日
不二家予定

6月23日㈭・24日㈮ 今月の特売日
畠栄・ミスド予定

お知らせ

★今年も三種町釜谷浜で朝に獲れた新鮮なカレイ・ヒラメ・ワタリガニなど入荷中です!!
※ただし海のシケ等により不定期です



★６月からイタリアントマトのケーキが毎週水曜日か木曜日に入荷しております!!

お問い合わせは生活課（45－2214）まで。

健康百科 歯の健康と8020運動

佐久総合病院名誉院長
松　島　松　翠

ここに出てくる8020運動（はちまるにいまるうんどう）という言葉は、わが国で展開されている歯の健康づくりのための運動のことで、「80歳になっても20本以上の歯を常に保持していよう」ということを目標にしています。

歯が抜けてしまうのは、虫歯と歯周病が主な疾患です。ほとんどの人が毎日歯を磨いていますが、多くの人は虫歯になったことがあり、歯周病の疑いがある人も約８割に上ります。これは歯磨きのやり方が悪く、きちんと磨けていないことを示しています。

虫歯と歯周病を防ぐために、歯に付く汚れである歯垢（しこう）をしっかり取り除くことが必要です。そのためのポイントとしては、歯と歯茎の間に、毛先がしっかり入るくらいの力で磨きます。磨く力が弱過ぎると歯垢がうまく取れません。

歯周病を防ぐためには、歯と歯茎の境目を意識して磨きます。歯と歯茎の境目は、歯垢がたまりやすく、歯周病が起こりやすい場所です。

歯の内側も一本一本丁寧に磨きます。最も磨き残しが多いのは歯と歯の間です。タフトブラシや歯間ブラシも使ってみましょう。

どんなに丁寧に歯を磨いても、本当に磨けているかどうかは自分では分かりません。そこで重要になるのが歯科での定期検査です。歯科での定期検査では、虫歯の検査、歯周病の検査、歯石の除去などが行われます。積極的に受診してください。

歯垢が硬くなったのが歯石で、歯磨きでは除去できないため歯科で取り除く必要があります。

虫歯は１年に１～２回、歯周病は約３カ月置きに定期検査を受けるといいといわれています。

農繁期の主婦をお助け
家事負担軽減の共同炊事

女性部などで組織する共同炊事推進委員会は、田植えの本格化する5月12～31日の期間に共同炊事を実施。調理場となったJAの農産物加工センターでは、委託を受けた総勢9名の担当者が1日143軒分（512食）の調理・配送にあたりました。

共同炊事は忙しい田植え時の家事負担を軽減するべく、昭和50年、当時の婦人部の努力で始まりました。幅広い味の好みに対応できるよう下ごしらえまでを済ませた半調理食材と、すぐに食べられるお惣菜とを組み合わせてあります。

栄養バランスに配慮した親しみやすい献立ですので、まだ利用されたことのない方も、来年はぜひ利用してみませんか。

調理作業風景

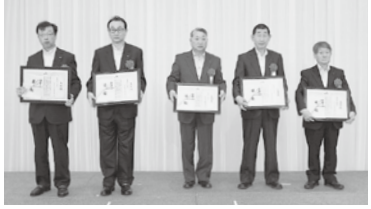
メニュー一例（2人分）。写真左上から時計回りに、ヒレカツ・せん切り用キャベツ・ぜんまいの煮付け・即席漬け、写真中央がつくだ煮

優績JAを表彰
第6回JAバンクあきた推進大会

5月23日、第6回JAバンクあきた推進大会が秋田市内のホテルで開催され、優れた業績を挙げた県内の5JAと20店舗が表彰されました。JA大潟村は特別賞と、昨年に引き続き年金部門の最優秀賞を受賞しました。

今回受賞した特別賞は、JAバンクが設定する推進目標8項目のうち、個人貯金残高・年金・JAカード・給振など7項目を達成したことによるものです。これはJA秋田ふるさとと並んで、県内トップの達成数です。

JAでは今後とも、地域の皆さまから信頼され選ばれる金融機関を目指し日々頑張ってまいります。


特別賞の表彰状を受け取った高橋常務（写真左から2人目）

最優秀賞（年金部門）の表彰状を受け取った金融課の高橋係長（写真一番左）

組合員の心に寄り添える職員に
新入職員田植え研修

JAは5月18～24日、新たに採用した職員を対象に田植え研修を実施しました。

この研修は、JA職員としての第一歩を踏み出すにあたり、日頃農家組合員がどのような作業をしているのか実感し、少しでも農家の気持ちを知った上で業務にあたることを目的として昨年から行っています。

総務課の山田正則と大関悠、資材課の佐々木新、金融課の西村愛莉の4職員が、ハウスや圃場で苗箱積みなどの体験をしました。

「農作業は今回が初めてだが、大潟村の圃場はとにかく規模が大きく、生産者の苦労が身に染みた」（山田職員）、「祖父母の田んぼで手伝った経験と、野球で培った体力があるので、農作業がとにかく楽しい」（佐々木職員）など、各々語った新入職員たち。JA職員としての気概を新たにし、日々の業務に取り組んでいます。

土をならす山田職員

苗箱を渡す佐々木職員

苗箱をまとめる大関職員（写真左）

苗箱を洗う西村職員（写真左）

※フォトニュースは8ページにも掲載しています。

特集 小泉進次郎議員への提言

小林　肇

4月29日、自由民主党の小泉進次郎衆議院議員が、「地方視察キャラバン」の一環で大潟村を訪問し、村内関係者と意見交換を行いました。

その際に小林肇組合長は、現在の農業が抱える問題などについて、解決の糸口を見つけるべく、農林部会長である小泉議員に提言書を提出しましたので、内容をご紹介いたします。

自由民主党　農林部会長
衆議院議員　小泉進次郎　殿

キラリと光る農村を目指して

大潟村農協は昭和45年に設立され、一貫して農家のための農協として努力して参りました。稲作専業農家群の大潟村は、離農者が少ないため農地拡大が難しいという特有な課題が出ております。そのため、規模拡大意欲が強く農業投資もまだまだ盛んな農業現場となっています。当農協も組合員金融として積極的に相談を受けていますが、農家組合員のために頑張れば頑張るほど、金融利益を落とさざるを得ない状況になってきました。

Ⅰ．農協金融の課題について

農業については、いろいろな農業制度資金を用意して頂いておりますが、大潟村農家の資金需要は他の担い手よりも金額が多く、農家のためを考えると日本政策金融公庫の「スーパーL資金」へ誘導する必要があります。しかし、この資金は単協のプロパー資金が利用できないため、金融利益につながらず事務手数料収入のみとなってしまいます。農林中央金庫も独自資金を創設しておりますが、無利子期間が3年となっており、公庫資金の5年にはかないません。

農林中央金庫に、このような現状を打破するために「無利子期間5年」や「公庫を超える独自資金創設」「農業融資に対する利子補給」など単協プロパー資金活用をお願いしていますが、全く耳を貸していただけません。純粋な農業投資に対して努力している農協金融が報われない状況は、地方創生にはつながりませんし、単協から集めた93兆円の農林中央金庫資金の積極的活用で、農業農村の活性化につなげるべきだと感じています。

Ⅱ．ジェネリック農薬について

肥料や生産資材については、農家もいろいろと安い資材を選択出来る環境になってきましたが、農薬についてはどうしても安くなりません。どうにか打破したいと農薬メーカーと直接交渉をしましたが、各地方の卸としっかりと連携しており、価格がなかなか下がらない状況が分かりました。

そこで気づいたのですが、医薬品の分野では「ジェネリック医薬品」が普及していますが、農薬の分野でも「ジェネリック農薬」という物ができないものでしょうか。農薬を開発するにはかなりの開発費がかかるのは分かりますが、ある年数を経過した農薬成分については、他のメーカーも安価で利用できれば農薬価格も下がると思います。

平成30年からは、政府による生産調整関与が廃止され、稲作現場においては混乱も予想され、大潟村は大変不安になっています。しかし、後継者もおり日本一安いコストを目指して取り組んでいる稲作農業プロ集団の大潟村は、「安心・安全・高品質・高反収・トレーサビリティ」を掲げ、これからも食糧基地として機能させていくために努力していきます。

日本米の海外輸出に向けて

Ⅰ．日本食文化情報発信戦略

日本食文化が無い市場に、日本産米や加工食品を輸出しても食べる機会を得ることは難しい。戦後食料難の時代、アメリカによる小麦・乳製品戦略は、キッチンカーを全国へ派遣し、調理方法を伝達することによって広められました。さらに、「頭脳」という本では、「米を食べると頭が悪くなる」という情報を拡散し、「学校給食はパン食」という小麦文化を植え付けました。

世界的な健康食文化の中で日本食は一番優れており、「ダイエット」「健康」「美食」というフレーズには

ピッタリと合っています。これから成長が見込める海外市場へは、「どうやって一口目を食べさせるか」という技術が必要になってきます。広報活動はもとより、調理方法、手軽に食べられる日本食加工品が身近に調達できるという利便性が重要になってきます。寿司は、日本食文化の中でも米を一番多く使います。ジャポニカ種を利用していない寿司は本当の「寿司」ではないという情報発信も戦略としてありだと思います。手軽な「おにぎり」や「おにぎらず」などを、日本発のヘルシーフードとしてフランチャイズ展開できれば最高だと思います。

民間が出来る事と政府がやるべき事を明確にし、オールジャパンとして戦略を立てていく必要があります。

Ⅱ．米輸出新規参入企業促進戦略

米の輸出は、新規需要米として位置づけられており、米卸大手や大手農機会社が積極的に行っていますが、なかなか採算をとることが難しい状況です。そこへ零細農家が米輸出に向かっても、簡単に伸びる分野ではありません。さらに、先発企業による市場独占化が新規参入企業の妨げになる可能性があります。多くの企業が参入することによって、流通の競争が起こりマージンの削減や経費削減につながります。公正透明な市場があれば、企業参入もしやすくなり米流通が増える可能性があります。

そこで期待できるのが「**米先物市場**」です。今現在、「東京コメ」と「大阪コメ」という2つの市場しかありませんが、ここに「香港コメ」という市場を作ってみるのはどうでしょうか。これにより、香港での米の受け渡し価格が明確になり、魅力があれば受け渡し可能な市場が出来上がります。投資意欲の強いチャイナマネーが市場に参入すると、一気に日本米の海外流通が広がります。将来的には、「上海コメ」や「北京コメ」などの市場が出来る可能性もあります。

日本産米だけでなく、「アメリカ産米」や「タイ産米」などの市場も出来れば、実際の国産米との価格優位性がわかり、さらに国際米市場を日本におくことによるメリットが出てくるものと思われます。仕組みを作れば、物とお金が動き出し市場が出来上がります。

先物市場は、将来の需給動向を価格という数字で表してくれる市場です。しかし、全中は「主食用米に投機マネーを入れて価格を乱高下させるべきではない」と反対キャンペーンを行っています。需給を見据えて作付けを考える担い手農業者に、先物市場を理解させないというのは大変間違った考え方です。経営の最終判断をするのは担い手農家であり、農協はそのような担い手農家に対して適切な判断材料を提供する義務があります。

Ⅲ．国内米政策と米戦略

25年産米の過剰在庫により26年産米は、過去最低の価格水準となり、外食実需企業はMA米やSBS米の使用から、国産米使用へと切り替えました。しかし、平成30年から政府による生産調整関与廃止が決定されており、水田フル活用による強力な飼料用米生産の誘導で昨年度から米価が上昇し、28年産米についても先物市場が上昇に転じています。

米価が上がって喜ぶのは農家だけであり、一瞬です。その後、価格上昇により外食産業は米の利用量を減らすか、MA米やSBS米へシフトし国産米市場を失います。これにより、在庫が積み上がると大幅な米価下落につながるという負の連鎖に陥り、後継者確保もままなりません。農家はそのようなことまで考えられないのが現状で、それを許してきたのも農協組織です。

本来であれば、生産調整を廃止し米増産によるコスト削減を目指し、米原料価格を下げることにより国産米市場を拡大する必要があります。その価格で海外輸出を目指すのであれば良いのですが、米価を上げてしまうと輸出競争力を落とすことになります。米価下落による所得減少こそセーフティーネットとして機能させなくてはならない部分であり、再生産可能な所得確保を補助金で補うことが継続可能な政策だと感じています。

米を戦略的に位置づけることにより、経営感覚の優れた担い手が現れてくるはずです。「余って厄介者」と米を位置づけるのではなく、「世界一美味しいお米」としての存在を世界に知らしめる時期が来たのだと思います。

秋田県　大潟村農業協同組合
代表理事組合長　小林　肇

（※本文を一部省略しております）

農林水産省職員来協の際、提言書の内容について説明しました（5月26日）

女性部「活動だより」

☆これからの行事予定

◎ＪＡ大潟村総会

組合員である女性部員が出席した場合　（４ポイント）

６月29日（水）　13時30分　ＪＡ会館大会議室

私達のＪＡがどのような経営状態なのか、どのような課題をもっているのか、どのような方向に進もうとしているのか、みんなで出席して質問し意見をのべ、活発な総会にしましょう!!

◎ＪＡ秋田みなみとの交流会　（２ポイント）

７月22日（金）　９時　ＪＡ大潟村駐車場集合

（乗り合わせて行きます）

申 込 先：生活課　木村環　TEL：45−2214

申込締切：７月15日（金）まで

★活動報告と各種会議報告

◎不用衣類・リサイクルについての話し合い（３月23日）

大潟村役場環境エネルギー室と執行部が、総会の時に検討課題となった不用衣類の事やリサイクルについて話し合いました。

今回環境エネルギー室にお願いしまして、役場の方針を書いていただきました。この方針をもとに、６月中旬に予定している役員会・エコレク部会で話し合い、今年度の不用衣類回収をどのようにするか話し合いを重ね決定していきます。皆さまからもご意見ご質問がありましたら、執行部までお知らせ下さい。　（三村敏子記）

大潟村役場　環境エネルギー室より、不用衣類についての方針

【資源リサイクルの重要性】

わたしたちの生活は、多くの資源を消費することで成り立っています。限りある資源を有効に活用するためには、浪費を避け、最大限リサイクルを図ることが最も大切です。

【婦人会の不用衣類回収事業について】

回収ボックスの設置による対応は、大量の衣類をためておく保管場所の確保、保管した衣類の管理、村まで回収に来ることが可能な業者の確保など課題が多く、すぐに取り組める段階にありません。よって、これまでと同様に、婦人会が主体となり、回収日を設け、一度に大量の衣類をリサイクル業者まで運搬するという形式を継続していきたいと考えております。

ごみの減量化には、個々の力が非常に重要です。一人一人が考え、能動的に取り組んでいかなければなりません。本事業を住民活動の一環として実施することによって、村民のみなさんにも、ごみの減量化・再資源化について、より広く理解していただけるのではないかと思います。

【村の方針】

村では、これまでと同様に、衣類運搬車の確保、会場の確保、周知活動、当日業務の補助など、不用衣類回収事業についてできる限りお手伝いさせていただきます。また、村でもごみ減量化・再資源化を推進するため、コンポスト・生ごみ処理機購入に対する補助金交付、生ごみ減量化講習会の実施、リサイクルプラスチックの回収、廃油の回収、その他必要な情報の発信などの各種施策を引き続き実施してまいります。

また、先述のとおり、ごみの減量化には一人一人の力が大切です。婦人会をはじめ、村民の皆さんと協働してごみの減量化・再資源化を図っていきたいと考えております。疑問点や要望等がありましたら気軽に声をかけてください。

◎大潟村健康づくり対策検討委員会（３月28日）

「第２次大潟村健康づくり行動計画」策定のための検討委員会が行われました。

平成20年度に策定し、実施してきた健康づくり対策や保健活動ですが、28年度はこれを見直し、かつ総合的な評価をして、昨年９月に行った「住民健康意識調査」を基礎資料として検討しました。

期間は28年度から37年度までの10年間です。「日本一元気な長寿村」を目指します。ここでは、生きがいをもって自分らしくいきいきと心が満たされた生活を送ることを「健康である」と考えます。できあがったものは村の広報にも掲載される予定です。ぜひ、目を通して自分の健康は自分でつくるという認識で積極的に取り組んでほしいと思います。資料は、例えば「分野別の目標と取り組み方について」など、大変わかりやすく興味をそそられました。

委員として出席された、診療所の福田先生の耳寄りなお話を皆さんにご紹介します。

「これからの外での農作業の際には白内障予防のためにサングラスをかけることや、大きな騒音の中では耳栓を使用した方がいいということです。目や耳が悪くなるのは年のせいだとあきらめている人が多いかもしれませんが、こまめな予防をすることで、少しでも快適な老後を迎えることができるかもしれませんね。」　（浅沼トク子記）

◎食品衛生協会許可に関する立入検査に立会い〈加工センター運営委員会〉（４月11日）

私達がみそ・豆腐加工に使っているＪＡ大潟村加工センターで分からない事がありました。ちょうど保健所が定期検査にくるとのことで、執行部から３人、事務局の木村さんと立ち合わせていただきました。わかったことはＪＡ大潟村の名前で販売するのであれば、作ったみそ・豆腐・惣菜は販売できる、ということでした。　（三村敏子記）

◎野菜栽培活動グループ（５月10日）

雨模様の中、これから植える大豆・人参・長葱・さつまいもの畑作りと、４月２日に植えたジャガイモの芽かき及び追肥と土寄せをしました。この日やるべき事が沢山あり、集まったときは作業をやりきれるのかと不安の声もありましたが、忙しい時期にも関わらず11人の参加があり、お喋りの口以上に手をうごかし予定していた作業は笑顔で終わることができました。　（小澤美智子記）

青年部 活動報告と予定

随時部員を募集していますので、興味のある方はぜひＪＡ大潟村営農支援課（TEL：45－3033）までご連絡ください！

●活動報告

５月６日　ハウス巡回・青年部試験圃場に南瓜定植
６月３日　中央ブロックＪＡ青年部交流会

●活動予定

日にち未定　圃場巡回・さなぶり・ゴルフコンペ

ハウス巡回の様子

農家経営と地域農業振興に役立つ情報

●お申し込みは JA へ　毎日発行　購読料 1カ月 2,623円(税込)

THE JAPAN AGRICULTURAL NEWS
日本農業新聞
http://www.agrinews.co.jp

広げよう読者の輪　進めよう協同活動 ― 組合員・JA 情報共有運動

ＪＡ大潟村の概況　28年５月末現在

貯　金…265億9,531万円　正組合員数……1,125名
貸出金…　83億3,648万円　准組合員数……　37名
出資金…　9億2,235万円

理事会報告

５月31日開催

報告事項

・業務報告（４月末事業実績等）
・コンプライアンス委員会報告
・安全衛生委員会報告について
・住宅資金貸付要項の一部改正について
・賃貸住宅資金貸付要項の一部改正について
・平成27年度期末監事監査意見書について
・平成27年度監事監査報告書について
・平成28年度監事監査計画について
・大口信用供与先の経営状況等について

議　案

第16号　第47回決算関係書類の承認の件について
第17号　定款の一部変更の件について
第18号　信用事業規程の一部変更の件について
第19号　第47回通常総会の開催について
第20号　第47回通常総会提出議案について
第21号　書面議決権の行使に関する取扱いについて
第22号　平成28年度事業計画について
第23号　中期経営計画（平成28年度～平成30年度）について
第24号　不良債権の処理方針について
第25号　理事と組合との契約について

協議事項

・大潟村農業委員会委員の農協推薦に係る今後の対応等について
・購買品の供給決済サイト設定について
・参議院議員通常選挙の推薦について

－五城目警察署からのおしらせ－

～あなたが模範です道路の横断～

子供に対する交通安全教育

保護者が実践して手本となり、必要な技術や知識を子供に教えましょう。

高齢者に対する交通安全教育

加齢に伴う衰えを自覚し、道路や交通の状況に応じて安全に通行しましょう。

五城目警察署　TEL 018-852-4100

No.214

初めての お誕生日おめでとう!!

戸嶋　太一（たいち）ちゃん

歩くのも上手になってますます元気いっぱい！
いたずらも大好き♡得意の笑顔で家族みんなのアイドルです♡
これからもいっぱい遊んで大きくなろうね!!

鈴木　翼（つばさ）ちゃん

お歌大好き！食べるの大好き！お姉ちゃんとお兄ちゃんはもっと大好き♡
いつも２人の後を追いかけては、翼の大きな声と笑い声が聞こえてきます。
３人仲良く元気にすくすく大きくなぁ～れっ♪

このコーナーに掲載希望の方はご連絡お待ちしております。TEL 45－2211　広報担当

今月のいちおし情報

ＪＡバンクあきたサマーキャンペーンのお知らせ

ＪＡバンクあきたでは「サマーキャンペーン2016」を実施中です。新規申込みの定期貯金を対象にキャンペーン金利「年0.2％」（税引後0.159％）を設定させていただくほか、数量限定で「ちょリスサマーバッグ」をプレゼント！ぜひこの機会にご利用下さい!!

今回はさらに、50万円以上のご契約の方には「ちょリスマグネットクリップ」もプレゼント！

●期 間　**平成28年６月６日（月）から８月31日（水）まで**

●内 容　定期貯金（１年のみ）10万円以上の新規ご契約の方、および10万円増額の方

●対 象　個人のお客様に限ります

JAバンクあきた

JAバンクあきた　検索　http://akita.jabank.org/

お申し込み・お問い合わせは
金融課（45－3018・2211）まで。

フォトニュース PhotoNews

今年で2回目 GPS搭載田植機の実演会

5月24日、GPS（全地球測位システム）を搭載した田植機による田植えの実演会が、村内農家の圃場で行われました。

この田植機は東北農業研究センターの長坂善禎主任研究員が、（株）クボタと、光学機器メーカーの（株）トプコンと共同開発したものです。

今回、GPS田植機による田植えを体験した谷口拓也さん（東2の6）は、「JAS有機米の栽培圃場では、除草機が入りやすいようにまっすぐ植えることに特に気を使っている。この田植機はハンドルを握らなくて真っすぐ植えてくれるので、とても良い」と感想を述べました。

GPS田植機は他にも、○水質汚濁を減らせる、○水温が温かく保たれ、苗の活着が良い、などの利点があり、今後の普及が期待されます。

GPS搭載田植機に試乗する村内農家の谷口さん（写真左）と、開発者の長坂さん（同右）

このように真っすぐ植えられます

※フォトニュースは３ページにも掲載しています。